

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
このたび、微生物検査の内容を一部変更させていただき
ますので、ご案内申し上げます。
何卒ご了解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

■ 変更日

2022年2月7日(月)の報告分より

■ 変更内容

Klebsiella oxytocaが検出され、薬剤感受性検査の結果より
ESBL産生が疑われる場合は下記のコメントを付記します。
なお、この場合、ESBL確認試験は実施いたしません。(補足参照)

コメント	K.oxytocaはESBL産生またはK1型βラクタマーゼ過剰産生が疑われます。
------	--

補足： K.oxytocaはすべての株が染色体上にK1型βラクタマーゼ遺伝子を持っています。
臨床材料から検出されるK.oxytocaには、βラクタマーゼ過剰産生菌が存在し、
これらの株はESBL産生菌と同様にセファロスポリン系抗菌薬に耐性を示します。
またK1型βラクタマーゼはESBLと同じく、クラスA型のβラクタマーゼに属し、クラブ
ラン酸によって阻害されます。したがって、ESBL確認試験ではK.oxytocaは「ESBL
産生」と「K1型βラクタマーゼ過剰産生」を明確に区別できないため、上記の対応と
させていただきます。